



5 西叶神社

京都神護寺の文覚上人が源氏の再興を祈願して石清水八幡宮を勧請したもので、平家が滅亡し、その願いが叶ったことで「叶明神」の称号が与えられたと伝えられています。



社は、天保13年(1842)に建造されたもので、社殿を取り巻く総数230を超える彫刻は安房の彫刻師「後藤利兵衛」の作品です。拝殿の格天井(ごうてんじょう)の花鳥の彫刻には、当時の日本には渡来していないとされる花や鳥も彫られています。棟柱を担ぐ力士像も彫られているので、どこにあるか探してみてください。

11 東叶神社



浦賀の港を挟んで、東西の叶神社が向かい合っています。社務所の裏には井戸があり、勝海舟が咸臨丸での太平洋横断前に、この井戸で水垢離(みずごり)をした後、明神山山頂で断食をしたと伝えられています。拝殿前のこま犬は、それぞれ子供を抱いていて、右側のこま犬はお乳を飲ませています。こま犬は口を開けた「阿(あ)形」と口を閉じた「吽(ん)形」で一對をなしていますが、東叶神社のこま犬は、左右とも口を閉じているように見えます。西叶神社のこま犬が、いずれも口を開けているように見えることから、東西で一對となっているとの説もあります。

12 東耀稲荷

天明2年(1782)の創建で食保命(うけもちのかみ)を祭っています。それほど大きくはありませんが、欄間(らんま)や格天井などには見事な彫刻が施されています。正面の大棟には、かつて立派な鳳凰の鍍絵(こてえ)がありましたが、修理の際に再現できる技術者がいなかったため、漆喰(しっくい)塗りになってしまいました。

左右隅棟の上には恵比寿と大黒天の飾り瓦が乗り、干鰯(ほしか)で栄えた東浦賀の繁栄ぶりがしのべれます。



観光ボランティアガイドのおすすめ

浦賀の鍍絵(こてえ)

左官職人が、土蔵などの壁の仕上げに鍍(こて)と漆喰(しっくい)で作上げたレリーフを鍍絵と呼び、江戸時代の中ごろから数多く作られ、浦賀にも数点が残されています。

干鰯問屋と回船問屋で栄えた浦賀には、土蔵造りが盛んであったことから漆喰壁を塗る左官職人も多く、中でも川間(西浦賀)に住む石川善吉は「三浦の善吉」として「伊豆の長八(入江長八)」とともに、全国的に知られる漆喰細工の名人でした。

西叶神社

石川善吉の大正後期の作品です。左側に水瓶を割る子、右側には割れた水瓶より流れる水の中から童子が顔をのぞかせ、助けられた一瞬の出来事を漆喰で表現しています。ふっくらした丸い顔、いきいきとした漆喰細工は、名人三浦の善吉の装飾壁の傑作です。



川間町内会館

石川梅尾の昭和34年の作品です。2階軒下に鳳凰、1階軒下に松竹梅と鶴亀が描かれ美しい色彩が施されています。梅尾51才の傑作。



東福寺

岩田辰之助による昭和7年の傑作です。本堂の外壁に「鶴・竜・虎・飛天」など、彫刻と見まごう出来栄の鍍絵が8点あります。



おみやげ

浦賀のお土産 黒船まんじゅう

浦賀駅前にある精米軒の「黒船まんじゅう」。ペリー率いる黒船が江戸に向う前に琉球に来航したことにちなみ、沖縄産の黒糖をソフトまんじゅうに使用した逸品です。和洋菓子 精米軒(裏面マップA) 価格1個100円 ☎046-841-1146 時9:00~20:00



ヨコスカの遊び情報は「ここココ」で!

携帯情報サイト「ここはヨコスカ」

横須賀のお出かけ情報をいつでも、どこでも手軽にチェック! 横須賀の観光スポットから最新イベント情報まで、情報満載の携帯サイトです。サイト内からメルマガに登録すれば、観光・グルメクーポンなどさらにお得な情報も! (右QRコードからどうぞ) URL: <http://www.cocoyoko.net/>



パソコンでチェックするならこちら!

横須賀の観光スポット、イベント情報を紹介するホームページです。今が旬のイベント情報や、横須賀でしか味わえないグルメ情報などミニより情報が満載! 横須賀行くなら「ここココ」をチェック! URL: <http://www.cocoyoko.net/>

ここココ 検索



お問い合わせ 横須賀市コールセンター
TEL: 046-822-2500 <年中無休8:00~20:00>

横須賀集客促進実行委員会(横須賀市 横須賀商工会議所 京浜急行電鉄株) 事務局 横須賀市企画調整部企画調整課 TEL: 046-822-8124 平成21年3月発行

観光ボランティアガイドが足で調べた

三浦半島

きまに

散歩

マップ付



浦賀駅 周辺



浦賀の渡船



愛宕山公園から東浦賀を望む

開国の港 浦賀を歩く

ペリー来航の地として知られる浦賀の歴史を訪ねて、開国の港町「浦賀」を巡る約1時間30分(約5km)のコースです。

東西の町を結ぶ渡船の旅、干鰯問屋・回船問屋により栄えたころの面影を残す鍍絵(こてえ)、幕末のころと変わらぬ心地よい潮風を感じながら散策をお楽しみください。

西浦賀から、少し足を延ばして行く燈明堂もお薦めです。



横須賀集客促進実行委員会(横須賀市、横須賀商工会議所、京浜急行電鉄株)



ペリー来航の街「浦賀」



時は幕末、ペリーが率いる4隻の黒船が浦賀に来航し、泰平の眠りから目を覚ました日本は、開国から近代化への道を歩み始めます。

浦賀の街には、歴史の表舞台を飾った人々の足跡が、今でも数多く残されています。黒船に最初に乗り込み折衝を行った、浦賀奉行所与力・中島三郎助の書による「大衆婦本塚」、浦賀奉行所の跡地、吉田松陰と佐久間象山がペリー来航時の対応策を協議した徳田屋跡一。勝海舟により初めて太平洋を横断した咸臨丸もこの浦賀の港で修理されています。

坂本竜馬をはじめ幕末の志士たちも、港を囲む浦賀の山のどこからか、黒船を目にしていたとも言われています。

3 浦賀ドック

浦賀駅の階段を下ると、巨大な建物が海側の道沿いに続いています。一世紀以上にわたって約1000隻にのぼる艦船を造り続けてきた浦賀ドックの跡地です。

平成15年に閉鎖されるまで、30mを超す高さのクレーンが空を覆い、日本丸、海王丸をはじめ、青函連絡船・大型タンカー・自動車運搬船・護衛艦などの船がこの浦賀ドックで建造され、街はドックで働く人たちでにぎわいました。浦賀の造船の歴史は古く、安政元年(1854)には、浦賀駅前を流れる「長川」(現在は暗渠)の河口で、中島三郎助らにより日本最初の洋式軍艦である鳳凰丸が建造されました。太平洋横断直前の咸臨丸も、この河口で修理が行われました。

現在では、昭和18年(1943)に作られ、1機のみ解体されずに残されているクレーン、明治32年(1899)に建造されたドライドックなど(いずれも浦賀生協付近からフランス積みのれんがが塀越しに見ることができます)に、当時の面影をしのぶことができます。

4 浦賀コミュニティセンター分館



浦賀奉行所関係の模型、中島三郎助関係の資料、鳳凰丸・咸臨丸・ペリー艦隊の船舶の模型などが展示されています。

休 年末年始
時 9:00~21:00
料 無料
☎ 046-842-4121